



Index

ウェルシュ菌食中毒

お客様アンケートについて

駆除の第一歩は清掃から

季節のムシ暦 (35)

FCCブログ

環境コラム

株式会社FCC



〒251-0043

神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

Tel 0466-31-3164

Fax 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

駆除の第一歩は清掃から

う～ん、お客様の元へお伺いしてよく思う事。
一見清掃が行き届いているようで、**見えない部分の掃除が疎かになっている事。**

それは清掃を怠っているという事ではないと思います。恐らく、見えない部分だけに気付いてないだけなのだ。

しかし、それがゴキブリをはじめとした**様々な害虫の発生原因**になってしまいます。

今後の対策の為、お客様に状況を確認して頂くと大概は驚かれます、「こんなに汚れていたのか」と・・・。
今回はそんな一例をご紹介します。



これは、グリーストラップ内の写真です。御覧のように汚れが溜まっています。実はこの中に、**ある害虫が大量発生**しているのです。



拡大した写真がこちら。まだ分かりづらいとは思いますが、この赤い円内の黒い塊・・・。

これら全て、**チョウバエの幼虫**なのです。**暖かく、餌も水分も豊富**というまさに**絶好の繁殖ポイント**を自ら提供してしまっているのです。

この様に、害虫というのはただ殺虫剤で殺せばいいやというのではなく、**環境の改善が一番のポイント**になっているのです。

私たちは、ただ駆除するだけではなく、**発生させない環境をお客様と共に作り上げていく事こそ、一番の重要な事**だと考えております。

施工員のとれたてブログ
2010年9月3日のエントリーより

ウェルシュ菌食中毒の特徴と予防ポイント

数ある食中毒の中でも症状が比較的軽いウェルシュ菌食中毒。この食中毒は**6月から10月**の気温の高い時期に発生します。

今回はこのウェルシュ菌食中毒についてご紹介したいと思います。

ウェルシュ菌は元々、土壌や下水などの水中、人や動物の腸管内など**様々な環境に広く分布**しています。

ウェルシュ菌は**熱に強く、高温でも死滅せず生き残ります**。その為、大釜などで大量の食品を加熱調理すると他の細菌が死滅してもウェルシュ菌は生き残ります。

また、食品の中心部は酸素が無い状態となり、酸素を嫌うウェルシュ菌にとって非常に増殖しやすい状態になっております。更に食品の温度が下がってくると急速に増殖を始めます。

食品の中で大量に増殖したウェルシュ菌が食品と共に胃を通過すると小腸内で増殖しエンテロトキシンという毒素が作られその毒素の作用で食中毒を発症するのです。

ウェルシュ菌食中毒の**潜伏時間は約6～18時間**で、殆どが**12時間以内に症状を発症**します。**腹痛や下痢、下腹部が張るという症状**がウェルシュ菌食中毒を発症した際の特徴です。

また一般的に症状は軽く、特別な処置をせずとも腹部の保温に注意しておけば数時間～1日で殆ど回復します。

原因食品は**肉類や魚介類、野菜などを使用した煮物や、カレーやシチュー、スープ、麺つゆなど食べる日の前日に大量に大釜などで加熱調理され、そのまま室温で保存されている食品**が多く見られます。

ウェルシュ菌食中毒の予防のポイントは

- ①**前日に調理する事は避け、加熱調理した食品は時間を置かずに提供する事**
- ②**一度に大量の食品を加熱調理した場合は室温に長時間置かない事**
- ③**調理後、提供するまでに時間が掛かる場合は小分けにしてから冷蔵保存し、提供する際に再加熱する**

の3つが挙げられます。

日本で公式に報告されているウェルシュ菌食中毒の事例は20件程度ですが、**実際には20件よりも遥かに多く発生**していると言われています。

症状は軽いものではありませんが、**一度食中毒が発生してしまうと深刻な問題に繋がりがねません**。

是非とも、今回ご紹介したウェルシュ菌食中毒の特徴や予防のポイントを参考に対策を行ってみてください。



アンケートご協力をお願い

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先月はお客様アンケートにご協力下さり、誠にありがとうございました。

今回、皆様より頂きましたアンケートの結果は貴重なご意見として、社内で厳粛に受け止め、**お客様がご不満に思われている点は改善し、ご満足頂いている点は更にご満足頂ける様に邁進して参ります**。

頂戴致しました貴重なご意見は、紙面ではお伝えしきれませんが今後、**弊社システム**の充実や**FCCニュース**等に随時反映させて頂きますので宜しくお願い致します。

次回アンケート調査は**10月1日より1ヶ月間実施**させて頂く予定となっております。

アンケートは施工、点検等で弊社スタッフがお伺いした際にお渡し致しますので、ご多用中のところ恐れ入りますが、ご協力下さいますよう、何卒お願い申し上げます。



【ドクガに倒された桜の話】

春は花、秋には紅葉と人は、季節の植物を追って、「風雅」を楽しんでいる。ところが、こんな植物由来の「被害」に出会うことが、すくなくからずある。

そんな問題の「種子」の一つに、ドクガ（毒蛾）がある。人は、このような毛虫を見ると、「刺すケムシ」として、忌み嫌う傾向がある。

このような虫が育つのは、サクラ、ツバキ、ザクロなどの庭木が知られている。これらは、四季おりおりに見事な花をつけて、人を喜ばせている。

わが家の庭にも、ソメイヨシノが一本あるが、花の盛りを終えると「ケムシ」の棲処となっている。

その歳たるものが、モンクロシャチホコ（*Pravera flarescens*）と称する、チョウ目のケムシである。また、別名をサクラムシ、フナガタムシ、シリアゲムシなどというが、これは、幼虫の形態や挙動をよくあらわしている呼称である。

この虫の幼虫の食草は、サクラを始めとしウメ、モモ、ナシ、ビワ、ニレ、クヌギ、ナラ、カシ、カエデなどである。

なお、この幼虫は、いたって暴食で、食害されている樹種によつては、経済的被害をもたらす大害虫である。

この暴食の時期は、8月下旬から10月上旬であるが、老熟幼虫は吐いた糸で枝から下って地上に降り、土中で越冬する。これが、翌年の6月下旬から8月下旬に羽化し、産卵する。

わが家の庭では、このサイクルが正しく廻っていて、今、暴食の真っ最中である。体長が5センチ前後で、紫黒色の老熟幼虫は、人を噛んだり、刺したりすることは無いが、気持の悪いことおびたしい。

この虫を知らない人にとっては、恐ろしげな「毒虫」にしか見えない。

では、何故、発生するのか？これは、手入れが悪いからの一語に尽きるが、樹高が低ければ、幼虫の集合している被害菜の切除も可能だが、成長した大木の手入れは、とにかく厄介である。

農薬による駆除は可能であるが、今日の社会感覚では、これもままならない。

恐ろしいのは、ある時期、この虫の防除が厄介で、歴史ある校庭の桜を伐倒する事例が流行（ハヤッタ）ことである。

多くの人が想い出すのは、桜が満開の小学校に入学した時の光景である。ピカピカの一年生と満開の桜、なった一年生も、それを眺める人達も忘れたい「一齣（ヒトコマ）」である。



【写真説明】サクラの葉に多発生したモンクロシャチホコ（左側）とクロシタアオイラガ（右側）の幼虫。右側の虫が毒ムシなのだ。

軽々しい「世論」への迎合は、心のメモリーを失わせる。一寸度、虫を知る、適正な農薬の使用で、伐倒を避けられたかもしれない。この虫は、「我慢」のしどころを語りかける虫だ。

しかし、桜も受難である。前述のサクラムシと同じ時に、「イラガ（刺蛾）」が発生することだ。

このイラガには、アオイラガ、テングイラガ、アカイラガ、クロシタアオイラガなどが知られている。

これらの幼虫は、雑草の中に、茎葉に毒毛を生やしたイタイタグサ（痛痛草）というのがあるが、これと似た状況で発生し、触ると同じような刺激を与える。このイラは「刺」と表し、イラガは、刺蛾という。

幼虫は、2センチ前後で、ナメクジのような形状であり、体の前後に黄色の肉状突起があつて、毒液を分泌する刺毛が生えている。これに触れると激しい、ズキンとする痛みを感じる。

この幼虫の面白いところは、老熟して越冬する時に、特徴のある「まゆ」を作り、その中で冬を越す。この「まゆ」をスズメノショウバンタゴという。

この刺す虫、「イラガ」のために、「桜」が被害を蒙った訳である。だが、本当の被害者は、見かけの目立った、サクラムシだったのかもしれない。

FCCブログ — FCCの代表、深澤正司の『湘南ではたらく小さな会社の社長blog』より

とても簡単なこと

人の粗を探すこと。私もサラリーマンの頃は年中やってました。しかも上司の。

毎日酒飲み行って、あんたのここが悪いんだよとか言って。いつも喧嘩。大概私が勝つ（笑）

人を褒める人は素晴らしい。人の粗なんかどんどん出てきます。でも社員には意味が違うけどやってしまう。それは臆や常識を教えるのが役目だから。粗ではなく気が付く。

でも優しく言っても、理路整然と言っても同じです。ホントは分かっています。

社員のことになるこっちも真剣だから、話しているうちにドンドン熱が入って怒ってしまう（汗）。修行中です。子供です。

ただ、今外ではまったく他人とトラブルにはなりません。相手の粗が見えても指摘しないからです。私の方がもっとダメだし。お互い粗を探しあったら言い争いは収まらないです。

最後は喧嘩が強い方が勝つみたい（笑）それじゃ～ホントの子供です。私もブログなんかで、色々持論を述べたりするけど、身の回りの人の現象に被らない様に注意しています。

これ言いたいんだけど、今はこれ言うとかの人に誤解されるだろ？とか。気をつけています。持論を述べるのをずらしたりして。

会社の朝礼でも、このブログでも、私が覚えたことや教えていただき身になったことなんかは惜しみなく伝えるようにします。人はもしかしたらそれで苦しんでるかもしれないから。

でも私は人の話し聞くかどうか？意外と素直じゃないんです。

あっ、知ってる？そうなんですよ、聞かなかつたりする。ダメですねえ～、成長しないですねえ～。

これはいいなあ～って本の言う事は良く聞く。でも人の話しは半分くらいかなあ？ダメですねえ～。感謝が大切です。でももっと大切なのは素直です。私、知ってるんです。

でもやらない。ダメですねえ～。ダメダメ言っているとホンとにダメになるから、いいですねえ～、さすがですねえ～、最高ですね。素直になります。ハイ

パソコンからFCCブログをチェック！

FCCニュースに掲載しているブログの記事以外にもFCCホームページには多くのブログがあり、業務の事や日常の出来事など様々なエントリーが投稿されています。

気になった方は

FCC ゴキブリ駆除

検索

トップページから全てのブログにアクセスする事が出来ます。

環境コラム

携帯電話とレアメタル

最近、ニュースや新聞などで見かける「レアメタル」というのをご存知でしょうか？

レアメタルは、産業界での流通量・使用量が少なく希少な非鉄金属などを指します。(非鉄金属…金や銀、貴金属以外で産業に利用される金属)

レアメタルは携帯電話など日本の高性能製品を製造する上で必要不可欠な上、世界的にも需要が高まりつつあるので、価格が高騰し、調達が難しくなっているのが現状です。

この事から日本では、このレアメタルを調達する事が出来る使用されなくなった大量の携帯電話や家電製品の回収に対して注目し、義務付ける計画が進められているそうです。

ここで問題になってくるのが、携帯電話の回収です。

携帯電話は現在買い換えるだけで高額な上に、個人情報や音楽、写真データなどが蓄積されており、それをただ義務化して回収する事は実質難しいでしょう。

しかし、現時点で希少とされているレアメタルが、今後の携帯電話や高性能機器の需要の拡大により、今以上に手に入りにくいものとなれば

「飽きたから機種変更しよう」と気軽に機種変更を行えなくなる可能性があります。

回収の義務化についても勿論ですが、私達も携帯電話などのリサイクルについて、今一度考える事が必要とされているのかもしれません。

